

所沢市は今年4月からプラスチックを分別収集して再生利用にまわす取り組みを始めた。11年度までは月1回収として回収し、10・46tをリサイクル企業のエコロ(本社・埼玉県富士見市、後藤雅晴社長)に引き渡して国内再生利用したことを明らかにした。

所沢市環境クリーン部リサイクルふれあい館の金子敦館長は、「量はまだまだ少ないが、国内再生利用を増やしていきたい」と述べている。かつてのタイオキシオン問題もあり、市民と行政がともに、プラスチックはできるだけ焼却にまわさず、リサイクルしようという意識が高い。容器包装プラスチックの材料リサイクルに加えて、2009年から家庭系の製品



衣装ケースなどが多い



単一素材プラスチックを国内再生利用

## 4カ月で10.5tの製品プラ

衣装ケースなど多い

### 単一素材を国内再生利用

所沢市／  
エコロ

プラスチックを分別収集して再生利用にまわす取り組みを始めた。11年度までは月1回収として回収し、10・46tをリサイクル企業のエコロ(本社・埼玉県富士見市、後藤雅晴社長)に引き渡して国内再生利用したことを明らかにした。

市では単一素材プラスチックの分別収集と再生利用を続ける意向を持っていて、近隣にヤードを持って再生利用を手掛けているエコロが19年度から事業を引き継ぐことに

た。中国のプラスチック輸入規制などの影響で引き取り先のリサイクル業者が事業から撤退した。

について市がリサイクル業者に費用を支払っていたが、12年度から17年度までは分別収集した製品プラスチックをリサイクル業者が中国輸出・再生利用として買い取るようになった。その後、18年度に入って、ビデオテープやカセットテープなどについてはい扱いを止めて衣装ケースなどの「単一素材プラスチック」に絞らんだが、

現在の「単一素材プラスチック」として市内25カ所の回収拠点から東所沢エコスデーに運んでさらに選別してからエコロに引き渡すルートと、市の東部・西部のクリーンセンターで「破砕」してから「単一素材プラスチック」を選別してエコロが引き取るルートがある。対象となる「単一素材プラスチック」は衣装ケースやポリバケツ、ポリタンク、プラント、ハンカチ、かごなど、樹脂としてプレット化している。